平成２３年１２月 ９日

各　　位

会 社 名　日 本 テ レ ホ ン 株 式 会 社
代表者名　代表取締役社長　高 山　守 男
（JASDAQ・コード番号：９４２５）
問合せ先　執行役員　管 理 本 部 長
兼　経営企画部長
茶 谷　喜 晴
電話番号　０６－６８８１－６６１１

平成２４年４月期第２四半期累計期間の業績予想と実績との差異および通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 23 年６月 13 日付け「平成 23 年４月期 決算短信［日本基準］（非連結）」にて公表しました平成 24 年４月期第２四半期累計期間（平成 23 年５月１日～平成 23 年 10 月 31 日）の業績予想について、下記のとおり差異が生じる見込みとなりました。

それに伴い通期（平成 23 年 5 月 1 日～平成 24 年 4 月 30 日）の業績予想を修正することといたしましたのでお知らせ申し上げます。

記

１．第２四半期累計期間(平成 23 年５月１日～平成 23 年 10 月 31 日)の業績予想との差異

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
前回発表予想　（A）	3,072	△6	△8	△14
実　績　値　（B）	**3,211**	**20**	**25**	**13**
増　減　額　（B－A）	138	27	34	28
増　減　率　（%）	4.5	－	－	－
（ご参考）前年同期実績	3,129	△98	△99	△146

２．第２四半期累計期間の業績予想数値の差異理由

当第２四半期累計期間における業績予想の差異理由につきましては、主力である移動体通信関連事業において、各移動体通信事業者によるスマートフォン等の高機能なデータ通信端末機器を中心とした魅力的な新機種の相次ぐ導入により、消費者の購買意欲は喚起され、合わせて端末機器の供給面においても改善の兆しが見られたことから、当第２四半期累計期間において、販売台数および売上高共に比較的順調に推移してまいりました。

また、中古携帯電話機「エコたん」の販売を始めとするリユース事業におきましても、同事業における新規フランチャイズ加盟店の募集は当初計画を上回って進捗し、一方では、既存の情報通信ショップやエコたん専門店による店頭販売および法人向け販売の強化に加え、自社商品やフランチャイズ加盟店からの出品を中心としたインターネットによるＷＥＢ販売に注力する等、販路の整備に注力したことからリユース事業全体では、販売台数、売上高共に順調に推移してまいりました。

これらの結果、売上高につきましては、前回発表予想 3,072 百万円に対し、3,211 百万円と前回発表の予想を 138 百万円、4.5%上回る見込みであります。

また、営業損益および経常損益につきましては、業績改善の見通しが立て難い首都圏の情報通信ショップ１店舗および専門ショップ１店舗の合計２店舗を閉鎖すると共に、関西圏の情報通信ショップについて、専門ショップへの転換を行う等、運営コストの削減と収益体質の改善に努めたことにより、営業利益 20 百万円（前回発表予想は △6 百万円の営業損失）、経常利益 25 百万円（前回発表予想は△8 百万円の経常損失）となる見込みであります。

なお、四半期純損益につきましては、前第１四半期会計期間において近隣店舗との統合を目的に閉鎖を実施しました首都圏の専門ショップ１店舗について、他社から同店舗の継続的な利用の申し出を受け、当第２四半期会計期間において、営業権および店舗内装設備や什器備品等、固定資産一式の売却に伴う店舗譲渡益 11 百万円の特別利益を計上する見込みでありますが、適格退職年金制度が平成 24 年３月に廃止されることを踏まえ、退職給付制度の安定的継続と財務上のリスク低減を図る観点から、平成 23 年９月 30 日に適格退職年金制度を廃止し、確定拠出年金制度への移行および退職一時金制度の改定に伴う退職給付制度改定損 16 百万円の計上や不採算店舗の閉鎖を前提とした賃貸契約解約損 2 百万円や減損損失 1 百万円の他、固定資産除却損 1 百万円の合計 21 百万円の特別損失を計上したことにより、税金費用等を差し引いた四半期純利益は 13 百万円（前回発表予想は△14 百万円の四半期純損失）となる見込みであります。

４．通期（平成 23 年５月１日～平成 24 年４月 30 日)の業績予想の修正

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
前回発表予想　（A）	6,176	19	15	7
今回修正予想　（B）	**6,378**	**44**	**47**	**34**
増　減　額　（B－A）	201	24	31	26
増　減　率　（%）	3.3	127.4	199.8	358.6
（ご参考）前年実績	6,281	△163	△154	△219

５．通期業績予想数値の修正理由

通期の業績予想について、主力事業である移動体通信関連事業におきましては、スマートフォン等のモバイル・ブロードバンド端末機器を中心とした秋冬モデルの導入が予定され、安定した商品供給を前提に需要は堅調に推移するものと予測されるものの、一方では、従来タイプの端末機器の販売において、消費者ニーズが比較的廉価で採算性の低い機種へと需要がシフトしつつあり、合わせて市場競争の激化に伴う値引き施策の拡大も相俟って、移動体通信関連事業における収益環境は、依然として予断を許さない状況が続くものと予測されます。

当社といたしましては、このような市場環境を鑑み、主力の移動体通信関連事業におきましては、引き続きスマートフォンやデータ通信端末機器の販売を中心としたモバイル・ブロードバンド市場への取組みを強化すると共に、「情報通信ショップ」や「専門ショップ」等の出店形態に捕らわれること無く、市場環境や立地条件等によって不採算と判断される店舗については今後も閉鎖、統合の措置を講じることにより経営効率の改善を図ってまいります。

また、中古携帯電話機の取扱いを始めとしたリユース事業におきましては、販売価格において低価格帯の中古商品からスマートフォン等の高価格帯の中古商品へと需要が変化しつつあり、販売数量は当初の予想を下回る見込みであるものの１台当りの販売単価は上昇傾向にあります。

一方、販売チャネルの面におきましては、自社およびフランチャイズ加盟店向けＷＥＢサイトの整備・拡充を行うと共に、一般企業のフランチャイズ加盟店への加入促進を目的としたフランチャイズ・ショーへの参加等、訴求効果の高い募集方法を引き続き採用することにより、新たな加盟企業の開拓に注力してまいります。

上記に記載の事項を踏まえ、通期業績の見通しにつきましては、売上高において、前回発表予想 6,176 百万円に対し今回発表予想 6,378 百万円（3.3%）の増加に修正するものであります。

また、これに伴い営業利益 44 百万円（前回発表予想 19 百万円、127.4%増）、経常利益 47 百万円（前回発表予想 15 百万円、199.8%増）、当期純利益 34 百万円（前回発表予想 7 百万円、358.6%増）にそれぞれ修正をいたします。

以　上

※　業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づいて算出したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。